2024年
# 11月 みやま
第318号

病院理念
『患者さまの不安をとること』
当院の基本方針
「地域に根ざした安心できる医療」
「精神科医療の充実」
「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会　平川病院
〔ホームページ〕http://www.hirakawa.or.jp/

## 第36回東京精神科病院協会学会に参加してきました

院長　平川 淳一

令和6年10月22日（火）に、京王プラザホテル新宿で第36回東京精神科病院協会学会が開催されました。東精協加盟63病院のうち、28 病院から 67 演題の応募があり、全参加者数は776人となりました。都道府県単位の学会では国内最大級だと思います。当院からも27人が参加し、4演題を発表し、高評価を受けました。

学会に参加していつも感じることは、各病院の弛まぬ研鑽と向上心です。本当に東京の精神科病院は頑張っていることを感じ、そして、我が平川病院のスタッフも負けじと頑張ってくれていることに喜びと感謝を覚えます。患者さんのために心技体を磨き、少しでも良くなっていただき退院できるように皆で邁進していこうと思います。どうか、よろしくお願いします。

【表紙】院長あいさつ 【P2】精神障害にも対応した地域包括ケアシステム 【P3】第11回成人発達障害支援学会に参加して 【P4】（リレー記事）心理療法科より 【P5】（病棟たより）東5病棟より 【P6-7】（特集記事）第36回東京精神科病院協会学会報告 【P8】（委員会紹介）診療情報管理委員会・編集後記

# 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム
## ～八王子市のモデル事業が始まりました～

地域生活支援室より

地域生活支援科　科長　石橋 さおり

八王子市では、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」（以下、にも包括）を構築するための一環として、10月より「医療福祉連携型早期訪問支援事業」を開始し、当院もこの事業に参加しています。

この事業は、ひきこもりや8050問題など単一の支援機関だけでは対応が難しい相談が増加している中で、精神疾患の疑いや精神的な不調が要因となっていることが少なくない状況があり、地域で生活する上で課題が深刻化する前に、早い段階から本人とその家族を含めて医療と福祉の連携による支援体制を構築していくものです。

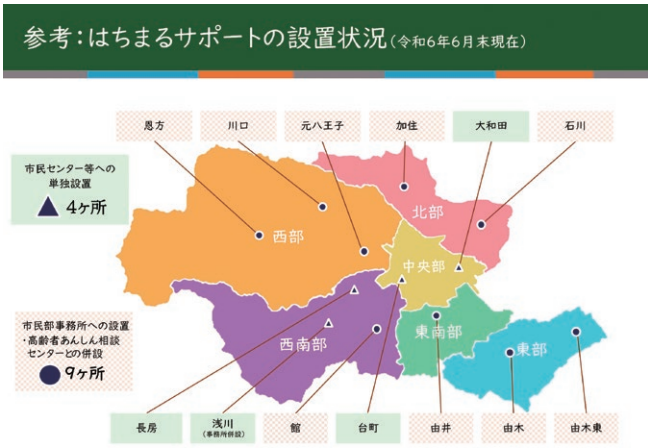
具体的には、八王子市福祉部と健康医療部が主催し、八王子市内の精神科医療機関の精神保健福祉士と「八王子まるごとサポートセンター」（以下、はちまる）に所属するコミュニティーソーシャルワーカー（以下、ＣＳＷ）でチームを構成し、地域住民の相談対応と他機関連携、訪問支援、研修実施等を行います。必要に応じて、八王子市保健所保健師も参加します。

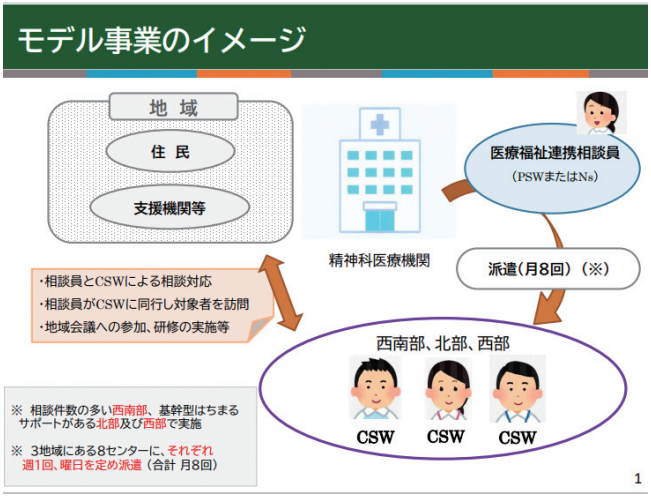
「はちまる」については「みやま」4月号にも掲載しましたが、八王子市内に13か所ある「福祉の総合窓口」で、生活上の相談や諸手続きの支援、地域活動やイベント・住民の交流の場等への参加支援、居場所作り等地域に必要なものを作り出す事業を行っています。また、ＣＳＷとは、関係専門機関や地域に住む方々と連携して、地域の困りごとを支援する社会福祉の専門職です。

今回の事業では、八王子市内の北部・西部・西南部圏域をモデル地域に選定し、モデル地域担当の「はちまる」で実施します。

モデル事業の実施期間は、令和6年10月1日から令和9年3月31日までの予定です。この事業の運営方法や情報交換等を行うため、年2回程度事業運営会議が行われます。さらに、年度ごとに事業評価委員会を開き、評価を行い、事業内容に反映させていきます。

今後もモデル事業の進捗状況を「みやま」でお伝えしていきたいと思います。



# 第11回成人発達障害支援学会大阪大会に参加して

地域生活支援室より

地域生活支援科　公認心理士　鎌田 哲司

9月7日から8日まで大阪での学会に参加しました。大会テーマは「病態理解に基づく成人発達障害の治療と支援」となっており、地域連携や親亡き後を見据えた自立促進、治療薬やゲノム医療まで様々な視点からの支援に関する講演・発表がありました。当院からは渡部洋実先生と私（鎌田）が学会に参加し発表を行いました。

私の発表は「成人ADHDの特性と不安、自己効力感、ストレス対処の関連」でした。ADHD専門プログラムを実施するにあたり、ストレス対処のスキルを獲得するためには、単にスキルを提案するだけでなく、安心してスキルについて試行錯誤できる環境整備が重要であることを発表しました。

渡部先生の発表は「中規模都市で発達障害支援システムを構築する取り組み」でした。八王子での医療機関や支援機関をつなぐシステムの構築過程について、当院の取り組みを発表されました。当院では、渡部先生を中心に一般の方や当事者の方、支援者に対する基本知識や支援機関の情報提供を目的とした「八王子市民のための発達障害支援ポータルサイト」を作成しています。このような取り組みに関する渡部先生の発表が評価され、めでたく学会賞を受賞されました。

今大会では、発達障害の方に対する一生涯に渡る支援の重要性を感じました。これまで発達障害は児童期の問題と認識されてきたこともあり、成人になるまで障害傾向に気づくことなく生活し、進学や就職、結婚や親との死別といった出来事をきっかけに不適応が明確となることも少なくありません。成人期では、生活状況や様式の急な変化への混乱、自身の生活様式を変更することへの抵抗を示すことが指摘されています。

このような状況を解消するためには一生涯を視野に入れた支援が重要となります。そのためには、地域連携や教育、福祉等との連携システムを市区町村単位で構築することで、児童から成人まで途切れることのない支援が求められます。渡部先生の発表が学会賞を受賞したことも、このような一生涯に渡る支援体制の構築のモデルケースとなったことが評価されたものだと考えます。

# 「そもそも心理職って？」

リレー記事

心理療法科　公認心理士　内田 竜人

今回の記事は心理療法科に所属する“心理職”についてお話します。心理職の資格には、元々“臨床心理士”をはじめとした民間資格がありましたが、2018年から“公認心理師”という国家資格ができました。平川病院の心理職は皆、“公認心理師”の資格をもってお仕事をしています。

ところで、お医者さんや看護師さんが何をする人かって想像つきやすいと思うのですが、心理職って何やっているか想像つきます？昔、知人に心理職のイメージについて尋ねてみたところ「初対面で相手の心が読めそう」「人心掌握術のプロ」等と言われ、そんなイメージを持たれているのかと驚きました。

私の意見ですが、心理職は読んで字の如く“心の働きの専門家”であり、心理学を活用して人の心を理解しようとします（オーラ的なものや生まれ持ったセンスで相手の心を読む訳ではないのですよ）。心理学とは人の心や行動の働きについての学問です。困っている事を聞いたり、心理検査にご協力いただいて、心理学的理論や知見をもとに「本当はこういう気持ちを抱えているのではないか」「こう思って行動していたんじゃないか」と考えて、そうした考えを共有したり助言したりします。注意すべきところは、一人ひとりがぴったりと心理学の理論に当てはまる訳がないということです。物理学とか数学みたいに決まった解答がある学問と違い、心理学って完ぺきな解答はないというのが現実です。

ただ、完ぺきじゃないということが重要なポイントです。心理学的理論と個人とのズレって個人の心を理解しようとするうえで非常に大事なことです（このズレの事を“個別性”と呼んだりします）。つまり、心理学的理論や知見に個人を当てはめてレールに乗せるのが私たち心理職の仕事ではなく、対話を重ねながらその人個人の抱く心や行動の働きについての理解を深め、一人ひとりに合った援助を一緒に考えていく仕事であると思います。

「そもそも心理職って？」という問いに対して端的に言いますと、心理職は“心理学の視点から、個人（患者さん）を理解し、一人ひとりにあった援助を考える人たち”ということになります…と筆が乗ってきたところで字数がもういっぱいに、、、具体的な心理療法科の仕事内容についてはまた別の機会に。

# 東5病棟における「社会復帰としての関わり」について　病棟だより

東5病棟　師長　髙木 路子

当病棟は社会復帰を目指した患者様が入院しています。1日の生活として2時間作業療法に取り組み、その作業療法の中で最近では「身だしなみ」プログラムがあります。女性に関しては、ビューティープログラムとして化粧の方法を学ぶ内容があり、皆さんで楽しんで参加していました。また、VRゴーグル（3D映像）を使用したSST（社会生活スキルトレーニング）が導入され認知行動療法に基づいたリハビリテーションも行われています。これらは、社会訓練の一環として対人関係を良好に維持する技能を身につけ、生活の質を高め、ストレス対処や問題解決ができるスキルを習得することが目的です。

看護の役割では、薬の自己管理・身の回りの整理整頓・洗濯・金銭管理など地域で生活するために必要な生活支援を入院中に行っています。地域での生活をイメージしやすいように、病棟内にある『シャンティ』という一人暮らしを想定したワンルームを使用しています。『シャンティ』の活用により、試験外泊ができる患者様が増えており、支援者として退院したいという目標に寄り添えているのではないかと感じています。

入院患者様のうち、今現在7名がグループホームや施設へ向けて取り組んでいます。

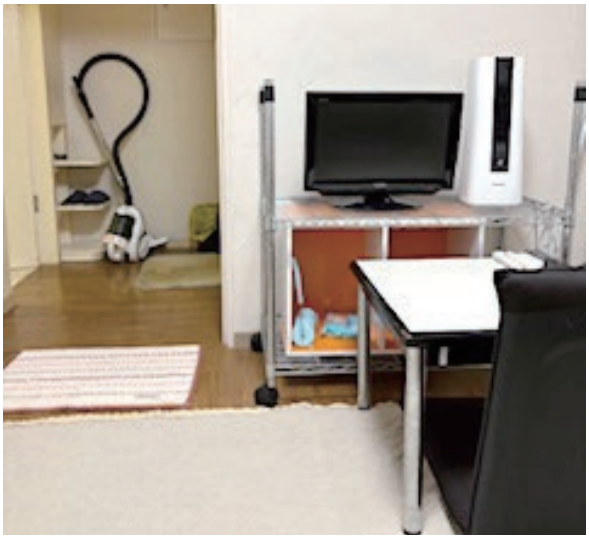
現在の入院生活で満足している患者様の声もあり、入院環境が良いと思ってくれることに嬉しい気持ちもありますが、一人一人どんな人生を歩んでいきたいか、どんな生活をしていきたいと思っているかを共有し、希望する生活が出来るように支援したいと考えています。平川病院ではACP（アドバンスケアプランニング）に取り組んでいます。元気な時から自分の人生、生活について考え、その人らしい生活ができるように支援したいと考えています。

『シャンティ』と名付けた経緯は、患者様の意見を募り決まりました。

シャンティはサンスクリット語で「平和」「平穏」「静寂」といった意味があるそうです。

素敵ですね♡

☆下の写真は東5病棟にあるシャンティ（訓練部屋）です☆



# 第36回　東京精神科病院協会学会

10月22日、新宿京王プラザホテルにて、第36回東京精神科病院協会学会が開催されました。当日は多くの参加者が集まり、当院からは口演発表4演題を発表致しました。発表後は他施設の職員と情報交換を行う場面も見られ、参加者にとって有意義な時間となりました。

## 当日の様子

東精協会長として開会の挨拶をする平川院長

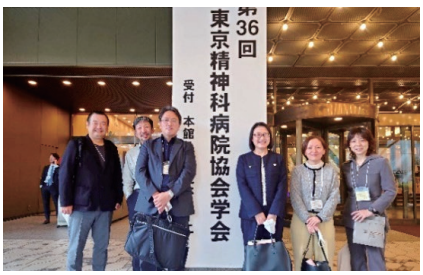
シンポジウムの様子

座長を務めた作業療法科　土屋科長

座長を務めたA2病棟　地福主任

発表者・座長と平川院長

教育講演の座長を務める平川院長




参加者にて記念撮影

## 発表者より一言

### IAD（失禁関連皮膚炎）対策のための予防的スキンケアの取り組みと実践報告 ～オムツ交換回数削除による患者の QOL の向上～

急性期病棟　主任　黒部 美恵

昨年度の座長に引き続き、本年度は発表者として参加させていただき光栄に思います。良い緊張感の中、トップバッターとして演台に立たせていただきました。8分という短時間で、伝えたいことを如何に工夫して伝えるかという難しさも実感しました。しかし、会場から「うちの病院でも取り入れたいと思います。」という意見をいただき、達成感を得ることができました。他者の研究発表を聞くことで日常の様々な事にタネやヒントはあるのだと再認識できたと共に、今後も日々の気づきや些細な疑問を気に留めて、看護を実践していきたいと思います。準備はとても大変でしたが、有意義な一日となりました。本研究にご協力、ご助言いただきました全ての方に改めて感謝申し上げます。今回の発表を機により一層看護に尽力していきたいと思います。

### 認知症を持つ人の役割の再獲得から「生きがい感」に介入した事例

作業療法科　佐藤 優花

初の学会発表を無事に終えることができ、研究から発表まで『大丈夫だ頑張れ!』とエールを下さった皆様に厚く御礼申し上げます。当日は会場に多くの方がいらして緊張しましたが発表を始めるとスッと落ち着く事ができました。座長からの『臨床で大事にしていること』『研究で苦労したこと』の質問も自身の言葉で伝えられたと感じます。
精神科作業療法の効果を見える形で発表する貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。

### 訪問看護に同行し管理栄養士が行った食支援の報告

栄養科　遠藤 優

初めて演題発表をさせていただきました。管理栄養士が訪問看護に同行し患者様一人ひとりに合わせた食支援を提案できるように努めました。演題決めから発表までの間に多くの方々にご指導いただき、自信を持って発表することができました。この場をかりて感謝申し上げます。当日は管理栄養士や作業療法士からの質問もあり好評でした。この貴重な経験を、今後の業務に活かしていきたいと思います。

### 癌にうつ病を呈した飛び降りよる外傷患者への多職種による関わり

リハビリテーション科　主任　奥出 聡

このたびは学会発表の機会をいただき、誠にありがとうございました。本発表を通じ、多職種連携による支援の重要性を改めて実感いたしました。発表に向けて貴重なご意見やご指導をくださった皆様に心より感謝申し上げます。今後も今回の学びを活かし、より良い医療の提供と多職種連携の深化に努めてまいります。ありがとうございました。

Series 委員会紹介

# 診療情報管理委員会

## Q1　委員会ではどんな活動をしていますか？

診療情報管理委員会では、患者様の診療記録を元に国際疾病分類に基づいた統計の作成、医師などの記載に関する量的監査・質的監査、カルテの保管・管理、活用などを行っております。

委員会メンバーは医師、薬剤師、看護師、精神保健福祉士、診療情報管理士、医事課より選出された委員で構成されています。

平成15年4月より診療情報管理委員会を設置し、現在まで毎月1回のペースで開催しております。カルテには患者様の病状、治療、看護の経過や検査結果、治療方針や説明と同意といった、たくさんの情報が含まれております。このたくさんの情報を活用し院内に情報共有を行うことによって、医療サービスの向上が可能となります。診療情報管理委員会ではこの情報発信に努めております。

引き続き委員会では医療の質に貢献し、より良い医療の提供のために、診療記録を適切に管理していくことを継続し、今後はホームページを通じて患者様や地域の方に当院の診療データに関する情報を提供していきたいと目指しております。

## 当院は南多摩医療圏の地域拠点型認知症疾患医療センターです

東京都では、平成24年に指定された「地域拠点型認知症疾患医療センター」12ヵ所（当院含む）と平成29年11月迄に指定されている「地域連携型認知症疾患医療センター」40ヵ所、合わせて52ヵ所の医療機関において、認知症の人とその家族が安心して暮らせる地域づくりを進めています。
認知症に関するご質問がありましたら、各地域のセンターまでお問い合わせ下さい。
尚、センター指定状況や役割の詳細等については、東京都公式ウェブサイト『とうきょう認知症ナビ』でご確認いただけます。

とうきょう認知症ナビ　検索

### 編集後記

今月は『文化の日』（3日）から始まり、『七五三』（15日）、『勤労感謝の日』（23日）、『立冬』（11月7日か8日から約15日間）とイベントが続く11月。ふと気になり『文化の日』の由来を調べると、「自由と平和を愛し、日本文化への理解を深める」という日本国憲法の趣旨から1948年に制定された祝日とのこと。先月末、メジャーリーグベースボールの最高峰ワールドシリーズでの大谷選手、山本投手といった日本人の活躍は全米中のみならず日本国内を熱狂させた。これを機に日本独自の文化や美術に触れ合うことで、今まで以上に自国を知り誇りに思おう。

医療法人社団光生会 平川病院
東京都八王子市美山町１０７６
電 話 ０４２－６５１－３１３１
FAX ０４２－６５１－３１３３
編集　平川病院　広報委員会
ご意見ご感想はこちらへお願いします
kouhou@hhsp1966.jp

HIRAKAWA HOSPITAL